



尾崎研究室が発掘した佐波伊勢崎地区の主な古墳

発掘年	古墳名	古墳所在地(現住所)	「上毛古墳総覧」	発掘年	古墳名	古墳所在地(現住所)	「上毛古墳総覧」
昭和25年	南原A号古墳	伊勢崎市赤堀今井町	佐波郡赤堀村150号	昭和41年	梨ノ木山古墳	佐波郡玉村町下茂木	佐波郡芝根村3号
	南原C号古墳	伊勢崎市赤堀今井町	佐波郡赤堀村156号		秋塚古墳	佐波郡玉村町上茂木	佐波郡芝根村10号
	南原H号古墳	伊勢崎市赤堀今井町	佐波郡赤堀村158号		玉村町2号古墳	佐波郡玉村町角測	佐波郡玉村町2号
	洞山古墳	伊勢崎市五目牛町	佐波郡赤堀村53号		玉村町3号古墳	佐波郡玉村町角測	佐波郡玉村町3号
昭和26年	洞山西北古墳	伊勢崎市五目牛町	—	玉村町13号古墳	佐波郡玉村町角測他	佐波郡玉村町13号	
	達磨山古墳	伊勢崎市五目牛町	佐波郡赤堀村26号	玉村町15号古墳	佐波郡玉村町角測他	佐波郡玉村町15号	
	赤堀村24号古墳	伊勢崎市五目牛町	佐波郡赤堀村24号	玉村町37号古墳	佐波郡玉村町角測他	—	
	波志江伊勢山古墳	伊勢崎市波志江町	佐波郡三郷村71号	昭和42年	玉村町6号古墳	佐波郡玉村町角測他	佐波郡玉村町6号
昭和27年	向井古墳	伊勢崎市下触町	佐波郡赤堀村140号	玉村町8号古墳	佐波郡玉村町角測他	佐波郡玉村町8号	
	多田山古墳	伊勢崎市赤堀今井町	佐波郡赤堀村314号	玉村町9号古墳	佐波郡玉村町角測他	佐波郡玉村町9号	
	蔵手塚古墳	伊勢崎市五目牛町	佐波郡赤堀村11号	玉村町10号古墳	佐波郡玉村町角測他	佐波郡玉村町10号	
	石山南古墳	伊勢崎市下触町	佐波郡赤堀村120号	玉村町14号古墳	佐波郡玉村町角測	佐波郡玉村町14号	
昭和28年	中里塚古墳	伊勢崎市赤堀今井町	佐波郡赤堀村265号	玉村町38号古墳	佐波郡玉村町角測他	—	
昭和29年	赤堀村27号古墳	伊勢崎市五目牛町	佐波郡赤堀村27号	芝根村1号古墳 (浄土山古墳)	佐波郡玉村町下茂木	佐波郡芝根村1号	
	寺跡古墳	伊勢崎市五目牛町	—	梨ノ木山古墳	佐波郡玉村町下茂木	佐波郡芝根村3号	
	轟山A号古墳	伊勢崎市赤堀今井町	—	昭和43年	芝根村7号古墳 (川井稲荷山古墳)	佐波郡玉村町川井他	佐波郡芝根村7号
	轟山B号古墳	伊勢崎市赤堀今井町	—	芝根村14号古墳	佐波郡玉村町川井	—	
	轟山C号古墳	伊勢崎市赤堀今井町	—	殖蓮71号古墳	伊勢崎市本関町	佐波郡殖蓮村71号	
	上淵名古墳	伊勢崎市境上淵名	佐波郡采女村30号	昭和44年	芝根村14号古墳	佐波郡玉村町川井	—
	下谷A号古墳	伊勢崎市東小保方町	佐波郡東村22号	芝根村15号古墳	佐波郡玉村町川井他	—	
	下谷B号古墳	伊勢崎市東小保方町	佐波郡東村38号	芝根村16号古墳	佐波郡玉村町川井他	—	
	昭和30年	轟山F号古墳	伊勢崎市赤堀今井町	—	芝根村17号古墳	佐波郡玉村町川井他	—
	丸塚山古墳	伊勢崎市三和町	佐波郡殖蓮村17号	芝根村18号古墳	佐波郡玉村町川井他	—	
昭和32年	西太田下古墳	伊勢崎市安堀町	佐波郡三郷村85号	権現山1号古墳	伊勢崎市豊城町	—	
	清音1号古墳	伊勢崎市茂呂町	佐波郡茂呂村8号	権現山2号古墳	伊勢崎市豊城町	—	
昭和37年	清音2号古墳	伊勢崎市茂呂町	佐波郡茂呂村5号	権現山3号古墳	伊勢崎市豊城町	—	
	清音3号古墳	伊勢崎市茂呂町	—	権現山4号古墳	伊勢崎市豊城町	—	
	赤堀村39号古墳	伊勢崎市五目牛町	佐波郡赤堀村39号				
	上淵名雙兒山古墳	伊勢崎市境上淵名	佐波郡采女村11号				
昭和38年	お富士山古墳	伊勢崎市安堀町	佐波郡三郷村100号				

「尾崎喜左雄博士展 Part3」の開催について

総合情報メディアセンター特別展示「尾崎喜左雄博士展 Part3」にお越しいただき、ありがとうございました。群馬県の古墳発掘の父と称される尾崎先生は、昭和24年から群馬大学教授として県内およそ300の古墳調査を行い、国内でも有数の古墳王国である群馬の考古学の礎を築いた研究者です。尾崎博士の「考古遺物・記録・写真」の3点が揃った調査資料は、全国でも類を見ない貴重な資料と評価されています。本展は、群馬大学地域貢献事業として、群馬県立歴史博物館の全面協力のもと開催することができました。トークイベント、解説など多くの方々のご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

佐波伊勢崎地域の古墳調査について、ゆっくりとご鑑賞ください。

総合情報メディアセンター長 **田中麻里**

群馬大学地域貢献事業・群馬県立歴史博物館協力

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館特別展示

「群馬県の古墳発掘の父・尾崎喜左雄博士展 Part3 ～群馬県内の古墳発掘・調査の歴史を識る～」

平成30(2018)年11月27日 発行

発行 群馬大学総合情報メディアセンター 編集協力 群馬県立歴史博物館

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

電話●027-220-7185 URL●<https://www.media.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学地域貢献事業・群馬県立歴史博物館協力
群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館特別展示

群馬県の古墳発掘の父

Part
3

尾崎喜左雄博士展

群馬県内の古墳発掘・
調査の歴史を識る

2018
11.27火

↓
12.21金
9:00~17:00

総合情報メディアセンター中央図書館2F学習室

尾崎喜左雄博士(群馬大学名誉教授)は、昭和21年から45年と長年にわたり県内の古墳発掘調査に携わり、県内300以上の古墳の調査を行った。国内でも有数の古墳王国である群馬の考古学の礎を築いた研究者である。尾崎博士の長年の研究成果は、現在まで群馬大学教育学部に保管されており、「考古遺物・記録・写真」の3点がそろった調査資料は全国でも類を見ない貴重な資料であると専門家から評価されている。3年目となる今回は、佐波伊勢崎地域の古墳に焦点を当てて展示を行う。

入場料
無料

12月9日①
トークイベント

観覧
無料

申込
不要

13:00~13:20

「展示解説」

深澤敦仁氏(群馬県立歴史博物館 学芸係長)

13:30~15:00

トークショー

「佐波伊勢崎における
群馬大学の古墳調査」

清水和夫氏(群馬大学教育学部同窓会 会長)

右島和夫氏(群馬県立歴史博物館 館長)

15:30~15:50

「展示解説」

深澤敦仁氏(群馬県立歴史博物館 学芸係長)

【お問い合わせ】

群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館

〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町4-2

TEL ■ 027-220-7185 FAX ■ 027-220-7184

URL ■ <https://www.media.gunma-u.ac.jp/>



群馬大学尾崎研究室と伊勢崎地域の古墳調査

右島和夫(群馬県立歴史博物館 館長)

古墳時代の伊勢崎市域

ここでいう伊勢崎地域は、平成17年に1市3町村(旧伊勢崎市・赤堀町・境町・東村)が合併した新伊勢崎市域を指す。この市域は歴史的にも有意の地域圏である。旧利根川流域を占める古代上野国の那波郡域とその北～北東側に隣接する赤城山南麓及び大間々扇状地西端の佐位郡域を中核としている。古代上野国の中心地域の一角を占める地域圏である。

古墳時代上毛野に遡っても有力地域の一つであり、数多くの古墳の存在がそのことを如実に物語っている。昭和10年の県下一斉の古墳分布調査によれば、伊勢崎市域では1,064基が数え上げられている。その後、この数字を大きく上回る古墳が新たに発見され続けているので、その実数は1,500～2,000基に達するとして間違いないだろう。

伊勢崎市域における尾崎研究室の古墳調査

群馬大学尾崎研究室は、当該地域で42基の古墳調査を行っている。そのうちの25基が、昭和25年3月を皮切りに昭和20年代に集中的に行われている。さらに、そのうちの21基が旧赤堀村に所在していた。調査の契機になった背景として、当時赤堀村在住で尾崎研究室に属していた松村一昭氏の存在が大きい。氏は、それ以前の旧制前橋中(途中から前橋高校)時代から、郷土研究のサークル活動を推進し、盛んに赤堀村地域を中心にフィールドワークを重ね、尾崎喜左雄氏の下にも通って指導を受けていた。ちなみに同じサークルには、中世史研究の峯岸純夫氏(都立大名誉教授、前群馬県立歴史博物館長)や著名な縄文研究者塚田光氏も属していた。群馬大学に入学した松村氏が尾崎氏に赤堀地域の古墳情報を伝え、尾崎研究室の調査に至ったことは想像に難くない。

当時は、尾崎氏による横穴式古墳研究が本格化しようとしていた時期であり、この時期の赤堀村における一連の古墳調査が、研究の基軸の一端を占めるところとなっていた。

尾崎喜左雄と松村一昭

伊勢崎地域の古墳時代研究史を語る上で、尾崎喜左雄氏とともに松村一昭氏の存在は重要である。松村氏は群馬大学卒業後、旧佐波郡域の小・中学校で教職に従事する傍ら、当該地域の古墳研究に没頭した。学校の長期休みのほとんどは、壊滅の危機に瀕している古墳の発掘調査に明け暮れていた。その際、常に師である尾崎喜左雄氏に調査指導を依頼し、調査中の現地を確認してもらった。それゆえ、その後に刊行される調査報告書では、尾崎氏が「序文」や「序章」を執筆しているものも多い。

その後、氏は旧赤堀村に請われ、教育委員会の専従職員として数多くの遺跡の発掘調査に従事し、膨大な数の報告書を作成している。もちろん、尾崎氏に調査指導を依頼しており、私も尾崎氏の現地確認に何度か同行させてもらったことがある。

松村氏が群馬大学卒業後に作成した報告書の数々を見ると、そのいずれもが右図にあるような表紙デザインとしている。これは、尾崎研究室で刊行している多くの報告書、会報等に使用されている表紙デザイン(中心の下寄りのマーク、尾崎氏が吉岡町南下A号墳で見出した石室平面の設計原理である $\sqrt{2}$ の図画法を表したもの)で、卒業生の石川正之助氏が原案を作成したものである。松村氏は、尾崎氏の直弟子であることと、石川氏と無二の親友関係にある思いをこのデザイン採用に込めていたのだろう。

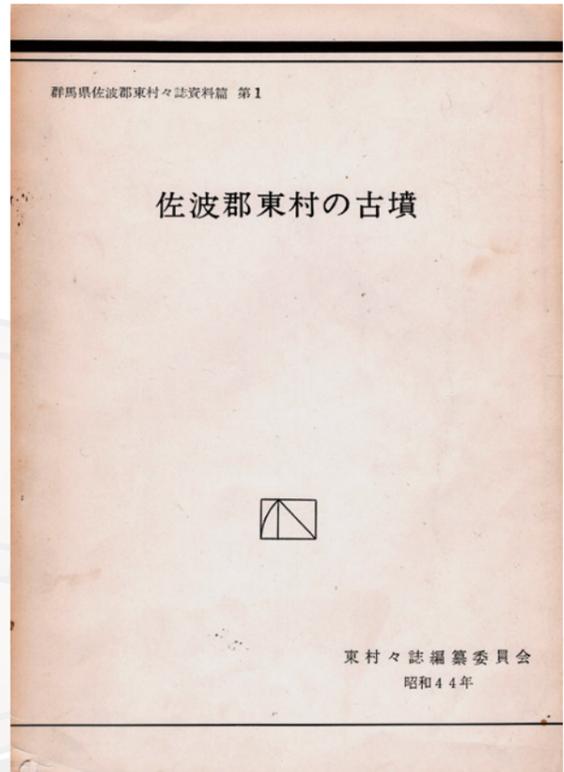


図1 松村一昭編 「佐波郡東村の古墳」

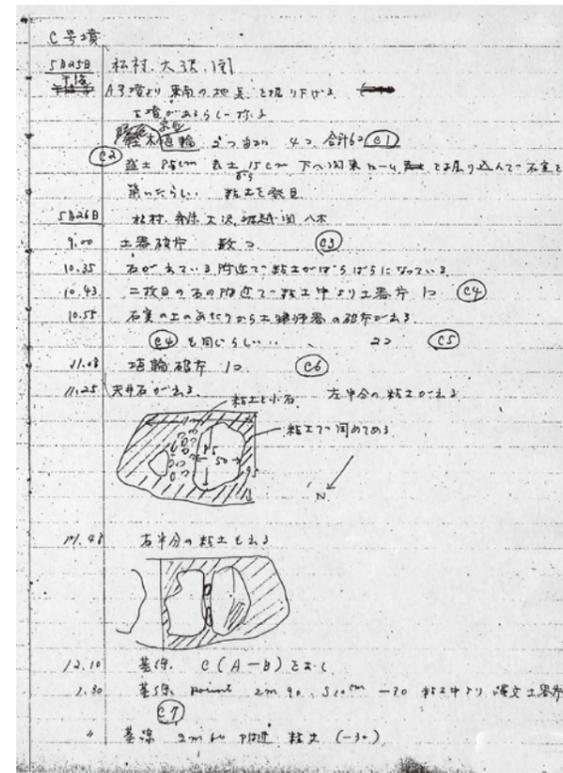


図2 昭和29年 轟山C号古墳 調査ノート [5月25日 松村]と記載されている



図3 轟山C号古墳 縦穴式石槨

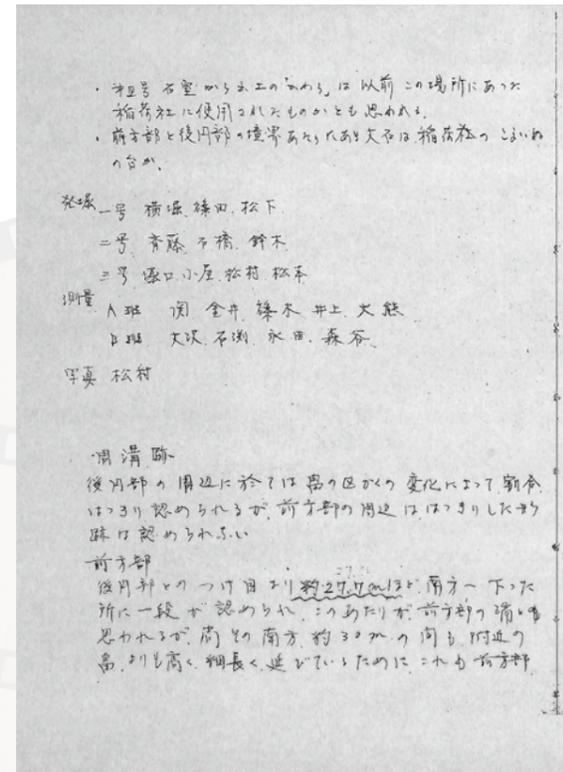


図4 昭和30年 丸塚山古墳 調査ノート [写真 松村]と記載されている



図5 丸塚山古墳 墳丘測量図

「佐波伊勢崎における群馬大学の古墳調査」

清水和夫(群馬大学教育学部同窓会 会長)

◎はじめに

尾崎研究室の昭和40年代における玉村町古墳発掘調査について

佐波郡玉村町では昭和37年度からの農業構造改善パイロット事業として土地基盤整備事業が実施されることになり、玉村町に存在する大部分の古墳が消滅することとなった。そこで、玉村町教育委員会では、国の文化財保護委員会(現文化庁)や県教育委員会と協議をし、昭和41年から昭和44年にかけて角淵・下茂木・川井地区の古墳の発掘調査を圃場整備に伴う補助事業として実施することにした。

当時の県内の学術的な考古学の発掘調査は、群馬大学教育学部史学第2研究室(尾崎研究室)が中心で、ほとんどの市町村では、文化財の担当者がいるのみで調査や保存に対する行政組織もなく文化財保護の意識も低いものであった。

玉村町教育委員会の文化財を担当された岡田登喜男さんは、群馬大学の尾崎研究室を足繁く訪ねてこられ、玉村町の古墳の現状と学術的な発掘調査の必要性を語られた。これを受けて、尾崎研究室も全力を挙げて調査協力をするようになった。

●点の調査から面の調査へ

これまでの尾崎研究室の調査は、研究上の目的を持ったものや緊急に保存が必要となった場合の調査が主流であり、発掘にかかる経費も尾崎先生の研究費などで賄われていた。しかし、昭和40年代になると住宅団地造成に伴う土地基盤整備や農業構造改善事業に伴う土地区画整理、工業団地造成工事などが一気に進められるようになり、その域内に存在する遺跡も面的な規模での調査保存が必要となってきた。

尾崎研究室では、昭和41年から昭和44年の4年間に玉村町地内に点在した20基の古墳を発掘調査や保存の状態の良い玉村15号古墳の移築調査を実施し、貴重な研究調査記録を残すことができた。(詳しくは、「群馬大学考古資料整理活用事業に伴う成果報告書 川井・茂木古墳群」を参考にされたい。)

●玉村町古墳調査は、私にとっては、考古学の基礎を学び、4年間の大学での学びの礎となった。

私は、玉村町立上陽中学校で最後まで学んだ卒業生でした。町村合併により現在は前橋市立第七中学校区となっていますが、自分の故郷で学ぶとの気持ちで発掘に参加しました。1年生からの参加でしたので、先輩や卒業されて教職でありながら調査に協力してくださった皆さんから発掘技術や研究の進め方など多方面にわたり学ぶことができました。この発掘を機に4年間、ずっと古墳を中心として考古学を学び続けました。そして、昭和45年3月の尾崎先生の教授職の退職とともに卒業しました。

●私の玉村町での発掘調査の参加を辿ってみると

①梨ノ木山古墳の周濠調査 ②角淵所在の古墳調査 ③玉村町第15号古墳(玉村町文化センターに復元)

④川井稲荷山古墳(芝根村第7号古墳)＜三角縁獣文帯四神四獣鏡出土＞ ⑤芝根村第15・16号古墳

※並行して前橋天神山古墳の調査 特に昭和44年3月16日～4月9日(4/3に鏡の発見)

※鏡を中心とした前期古墳の研究をする切っ掛けとなった。

●発掘調査にまつわるエピソード

①玉村町第15号古墳の復元と移築に参加(現在の玉村町文化センターに)

・旧の玉村町中央公民館への移築に参加…青年団の皆さんの協力が大きかった。

※昭和41年12月19日～29日まで発掘

※昭和42年の10月8日～16日に玉村町第15号古墳の移築作業



図6 発掘調査当時の岡田登喜男さん(玉村町教育委員会提供)



図7 出土直後の芝根村第7号古墳・三角縁神獣鏡(大墳武平氏撮影・玉村町教育委員会提供)



図8 玉村古墳群での尾崎先生(昭和42年)

②玉村町の文化財を守り抜いた人…岡田登喜男さんとの交流

・岡田さんの家族とともにあった発掘調査 おばあちゃん、奥様、子どもさんと暮らす岡田さんの家の広い二階が私たちの宿泊場所、おいしい味噌汁、栄養いっぱい副食、お昼のおにぎりの炊き出しと学生にとっては夢のような待遇でした。

※天罰…おにぎりを発掘現場に配達中に毒味と称して味見→耕耘機から転落で負傷

・私の家の庭には44年前に岡田さんから譲り受けたドウダンツツジが大きくたくましく育っています。

③川井稲荷山古墳「芝根村第7号古墳」の思い出【昭和43年3月24日～4月7日】

・川井稲荷山古墳(芝根7号古墳)出土の三角縁神獣鏡の発掘(昭和4月3日)

・当時としては画期的なことで想像もしていなかった。(調査担当者にも鏡の知識や関心もなく、ブリキのまるい物が出たと、移植小手でカンカンと叩いてみた。)

※高校生の食欲と巨大かつフライ・ツクシの甘露煮

④芝根村第15号古墳と芝根村第16号古墳の調査【昭和44年1月7日～16日】

※旧芝根村の公民館に宿泊し自炊(食事当番)

※発掘現場の近くのおばちゃんから即席ラーメン1箱

※バイク2人乗りの買い出しで駐在さんからの呼び出し～みかんと沢庵

※至福のひと時、飯倉温泉の思い出

◎おわりに

尾崎研究室が行った玉村古墳群の発掘調査研究の残したものは、極めて大きなものがありました。

その一つは、玉村町の古墳群の時代的特色や地域的な特色を明確にできたこと。また、川井稲荷山古墳(芝根村第7号古墳)から出土した鏡や萩塚古墳の円頭大刀柄頭の象嵌の発見など後の考古学の研究素材となる遺物を残せたことがあげられます。

もう一つは、岡田登喜男さんの文化財保護に対する情熱と取り組みがもたらした文化財保護組織づくりへの転換であります。

私たちは尾崎先生の指導の下、多くの先輩の支援を得て、面的な広がりがあり長期間にわたる発掘の調査方法や運営の在り方について技術を磨きながら学びました。ここでの体験を私自身、前橋天神山古墳の調査につなげることができました。

私は、玉村町のこの取り組みが先駆けとなって、群馬県の文化財保護への機運が高まり、組織体制づくりが始まったと思っています。

昭和48年には群馬県に文化財保護課が新設され、各市町村においても文化財の専門家が配置されるようになりました。その後、県においては埋蔵文化財センターが設置され、現在の埋蔵文化財調査事業団へと発展してきています。

今、東国文化の周知のための様々な取り組みと情報発信が行われています。こんな時だからこそ、考古学そのものの歩みをしっかりと見据えることも大切なことではないでしょうか。



図9 昭和26年 達磨山古墳(墳径35mの円墳)



図13 昭和37年 清音1号古墳(墳径約24mの円墳)



図15 昭和37年 赤堀村39号古墳(墳径約28mの円墳)



図17 昭和41年 萩塚古墳(墳径約28mの円墳)



図10 昭和28年 中里塚古墳(墳径25mの円墳)



図11 昭和29年 下谷A号古墳(墳長約57mの前方後円墳)



図12 昭和30年 轟山F号古墳(墳径20mの円墳)



図14 昭和37年 清音3号古墳(推定墳径約18mの円墳)



図16 昭和41年 玉村町3号古墳(墳径約22mの円墳?)



図18 昭和41年 玉村町15号古墳(径約18mの円墳)



図19 昭和42年 芝根村1号(浄土山)古墳(墳長約54mの前方後円墳)



図20 昭和42年 玉村町14号古墳(墳径約9mの円墳)

記録写真で振り返る佐波伊勢崎の古墳発掘

「古墳大国」として知られる現在の群馬県。佐波伊勢崎での尾崎研究室による発掘調査においても、数多くの古墳が発掘されました。

竪穴系埋葬施設の発掘 伊勢崎市五目牛町(旧:佐波郡赤堀村五目牛)に一部残存する5世紀中～後半の達磨山古墳ではA号石室(図9)を含む3基の竪穴系埋葬施設が、伊勢崎市赤堀今井町(旧:佐波郡赤堀村今井)に存在した5世紀後半～6世紀前半の轟山F号古墳(図12)では重層する竪穴系埋葬施設の発掘が行われました。

横穴式石室の発掘 伊勢崎市赤堀今井町(旧:佐波郡赤堀村今井)に存在した7世紀後半の中里塚古墳(図10)では「截石切組積石室」、伊勢崎市茂呂町に存在した6世紀後半の清音1号古墳(図13)や清音3号古墳(図14)、佐波郡玉村町上茂木に存在した6世紀後半の萩塚古墳(図16)などでは「角閃石安山岩削石積石室」の発掘が行われました。さらに、伊勢崎市五目牛町に存在した赤堀村39号古墳(図15)をはじめとして、6～

7世紀の「自然石乱石積石室」の発掘が数多く行われました。これらの発掘によって、様々な形態の横穴式石室の構造が明らかにされました。

なお、玉村町15号古墳の横穴式石室(図18)は、旧・玉村町中央公民館への移築を経て、現在では玉村町文化センター敷地内に再移築されています。

埴輪の発掘 伊勢崎市東小保方町(旧:佐波郡東村東小保方)に存在していた6世紀後半の下谷A号古墳(図11)では、数多くの円筒埴輪が密接して設置されている状態で発掘されました。この発掘成果から、前方後円墳における埴輪の樹立状況の一部が把握できました。

古墳群の発掘 佐波郡玉村町川井・上茂木・下茂木・角淵一帯にある「玉村古墳群」の発掘は地元・玉村で町教育委員会と共に行われ、玉村町3号古墳(図16)、玉村町14号古墳(図20)、玉村町15号古墳(図18)、芝根村1号(浄土山)古墳(図19)、萩塚古墳(図17)など、個々の6世紀代の古墳を「群」(＝「古墳群」として把握可能とする貴重な成果が得られました。

(深澤敦仁)